

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

12052

校区子どもセンター事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	5	家庭や地域における教育力の向上
施策	1	家庭や地域における教育力の向上
取組方針	2	地域における教育力の充実

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	社会教育費		
	目	生涯学習振興費		
	大事業	生涯学習振興事業		
	中事業	校区子どもセンター事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	生涯学習課	松下 行男 435-1138
事業実施の根拠法令	関連課			学校教育課		

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	平成14年度からの完全学校週5日制対策のため、休業土曜日に学校施設を開放し、児童にスポーツ体験や文化体験などの豊かな体験活動と補充・発展学習の場を提供する。		各小学校区子どもセンターを当該小学校・義務教育学校に置き、事務局と運営委員会を設置する。休業土曜日に、保護者・地域各種団体の協力を得て、子どもたちに様々な体験や活動をする機会を提供する。また、希望する子どもセンターには、学力向上プログラムとして土曜教室を実施し、年間20日程度、学力向上プログラム指導員を派遣し、児童を指導する。			
事業内容		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		自然体験、社会体験、文化スポーツ活動、学習活動等。子どもセンター5ヶ所	各小学校区子どもセンターを当該小学校・義務教育学校に設置し、児童に自然体験、社会体験、文化スポーツ活動、学習活動等様々な体験活動の機会を与える。	各小学校区子どもセンターを当該小学校・義務教育学校に設置し、児童に自然体験、社会体験、文化スポーツ活動、学習活動等様々な体験活動の機会を与える。	各小学校区子どもセンターを当該小学校・義務教育学校に設置し、児童に自然体験、社会体験、文化スポーツ活動、学習活動等様々な体験活動の機会を与える。	各小学校区子どもセンターを当該小学校・義務教育学校に設置し、児童に自然体験、社会体験、文化スポーツ活動、学習活動等様々な体験活動の機会を与える。

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	10,759	8,571	10,483	8,507	10,371	6,411	10,107	0	10,107	0
伸び率(%)	△2.7%	△17.3%	△2.6%	△0.7%	△1.1%	△24.6%	△2.5%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	3,517	3,517	3,866	3,786	2,628	2,469	239	0	239
	正規職員以外	641	641	0	0	0	0	1,607	0	1,607
	小計	4,158	4,158	3,866	3,786	2,628	2,469	1,846	0	1,846
国庫支出金	754	475	644	376	607	257	569	0	569	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	10,005	8,096	9,839	8,131	9,764	6,154	9,538	0	9,538	0
所要人数(人)	正規職員	0.44	0.44	0.48	0.47	0.33	0.31	0.03	0.00	0.03
	正規職員以外	0.27	0.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.32	0.00	0.32
主な予算内訳	報償金 1,596千円、傷害保険料 1,459千円、小学校区子どもセンター育成補助金 7,140千円									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	子どもセンター活動(体験活動、伝統文化、学習等)実施回数	回	目標値	850	850	850	850	850
			実績値	918	747	532		
			達成度(%)	105.8%	89.1%	62.6%	%	%
成果指標	子どもセンター活動(体験活動、伝統文化、学習等)参加者延べ人数	人	目標値	50000	50000	50000	50000	50000
			実績値	44726	41475	13501		
			達成度(%)	90.0%	81.6%	27.0%	%	%

#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	完全学校週5日制対策として子どもの体験活動、補充発展学習の場の提供による居場所づくりのみならず、運営委員会を主とした地域教育力の向上につなげることができる。
見直し・改善内容	校区子どもセンター運営面を担う人材の確保の難しさがある。また、運営に関わる大人が成果に対して「参加者が思うように集まらない」「活動がマンネリで新しいプランがない」と自信をなくしている面も見受けられる。人的、金銭的、時間的等に低コストな取組事例を調査研究、開発したものを各子どもセンターで共有し、地域、保護者を巻き込んだ取組とする。情報共有の場として運営委員長会議を活用すると共に、機会を捉え関係者と情報交換を行う。大人や子どもの地域ボランティア等を発掘し、積極的に活用するなど、それぞれの地域の実情に応じて取組の工夫を行う。またコロナ禍で取り組める活動等を模索し、情報交換しながら推進する。